

人口増加 トップは美浦村……………

1 人口変動の概況

(1) 県全体 一急増をとげた茨城県の人口一

本県の人口は、昭和54年1月1日現在で、2,472,359人

(男 1,228,481人、女 1,243,878人)となり、本年1ヵ年間における人口増加は、47,032人、その増加率は1.9%(前年の増加率1.6%)であった。(表一)

表一 年次別世帯、人口の推移 (単位：人、%)

年次	世帯				人口			
	1月1日現在	指数	増加数	増加率	1月1日現在	指数	増加数	増加率
昭和44年	473,982	100	16,138	3.4	2,093,742	100	34,086	1.6
45	490,120	103	22,479	4.6	2,127,828	102	27,583	1.3
46	512,599	108	16,214	3.2	2,155,411	103	34,587	1.6
47	528,813	112	11,175	2.1	2,189,998	105	29,977	1.4
48	539,988	114	14,344	2.7	2,219,975	106	41,317	1.8
49	554,332	117	17,371	3.2	2,261,292	108	44,794	2.0
50	571,703	121	21,308	3.7	2,306,086	110	39,059	1.7
51	593,011	125	11,846	2.0	2,352,197	112	35,273	1.5
52	604,857	128	13,094	2.1	2,387,470	114	37,832	1.6
53	617,623	130	17,279	2.7	2,425,327	116	47,032	1.9
54	634,902	134	—	—	2,472,359	118	—	—

注) 世帯、人口には外国人を含む。

その内訳は、自然増加 21,553人(出生 37,938人、死亡 16,385人)自然増加率0.9%、社会増加25,400人(転入 133,838人、転出 108,438人)社会増加率1.0%で、外国人については79人の増となっている。

なお、本県の人口変動をみると、自然増加率は前年と同じく0.9%であったが、社会増加率では、前年0.6%を大きく上回る1.0%という伸び率を示した。従って、これらを総合した人口増加率においても1.9%という高い上昇率をみせている。また、昭和44年を100として本県の10年間の人口の伸びを指数でみてみると、49年は117、54年には134

となり、約4割弱の人口が増えたことがわかる。

次に、本県人口の推移をみると、明治5年に戸籍から推計したものが最も古く、844,995人である。その後、大正9年に全国的規模で実施された第1回国勢調査では、1,350,400人と記録されており、昭和50年国勢調査の確定数が2,342,198人、昭和53年10月1日現在をみてみると、2,461,806人となっているから、この58年間に約111万人近く増加したことになる。

人口の伸びを指数でみてみると、大正9年を100として、昭和40年は152、45年は159、50年では173、さらにこの53年には182と本県の人口の大きな伸びを示している。

表二 年次別自然動態、社会動態 (単位：人、%)

年次	自然動態						自然増加数	自然増加率
	出生		死亡		自然増加数	自然増加率		
	年間総数	出生率(%)	年間総数	死亡率(%)				
昭和44年	34,966	16.5	16,386	7.7	18,530	0.9		
45	38,228	17.8	17,214	8.0	21,014	1.0		
46	40,061	18.4	16,644	7.6	23,417	1.1		
47	41,301	18.7	16,354	7.4	24,947	1.1		
48	42,569	18.9	17,298	7.6	25,271	1.1		
49	42,619	18.5	16,987	7.4	25,632	1.1		
50	40,027	17.1	16,641	7.1	23,386	1.0		
51	39,393	16.5	16,680	7.0	22,713	1.0		
52	38,469	15.9	16,255	6.7	22,214	0.9		
53	37,938	15.4	16,385	6.7	21,553	0.9		

注) 外国人は除く。

年次	社会動態								
	移動数			転入			転出		
	年間総数	指数	移動率	総数	指数	県外から	県内から	その他	
昭和44年	243,051	100	11.5	129,276	100	73,326	46,564	9,386	
45	238,925	98	11.1	127,662	99	75,937	48,042	3,683	
46	248,849	102	11.4	129,825	100	75,767	51,156	2,902	
47	237,703	98	10.8	121,294	94	70,255	49,744	1,295	
48	249,564	103	11.1	132,813	103	78,365	52,649	1,799	
49	249,474	103	10.9	134,347	104	78,486	54,495	1,366	
50	243,882	100	10.4	129,716	100	74,389	54,005	1,322	
51	236,929	97	10.0	124,795	97	69,707	53,755	1,333	
52	236,274	97	9.8	125,809	97	71,472	52,852	1,485	
53	242,276	100	9.8	133,838	104	79,233	52,546	2,059	

..... 昭和53年茨城県の人口と世帯概要 (上)

表一 年次別自然動態, 社会動態 (つづき)

(単位: 人, %)

年次	社会動態					態	
	転		出			社会増加数	社会増加率
	総数	指数	県外へ	県内へ	その他		
昭和44年	113,775	100	64,527	46,557	2,691	15,501	0.7
45	111,263	98	62,192	47,454	1,617	16,399	0.7
46	119,024	105	66,139	50,784	2,101	10,801	0.5
47	116,409	102	65,694	49,306	1,409	4,885	0.2
48	116,751	103	63,391	52,338	1,022	16,062	0.7
49	115,127	101	59,959	54,121	1,047	19,220	0.8
50	114,166	100	59,341	53,989	836	15,550	0.7
51	112,134	99	57,215	53,786	1,183	12,661	0.5
52	110,465	97	56,488	52,710	1,267	15,344	0.6
53	108,438	95	55,205	52,418	815	25,400	1.0

(2) 男女の別 一女100に対し男98.7

昭和53年10月1日現在の男女別人口をみると、男1,223,059人、女1,238,747人で、女の方が15,688人多く、性比(女100に対する男の数)は、98.7で年々高くなってきている。特に郡部における性比の伸びは大きくなっている。

また、性比が100をこえる市町村は、県内で20あり、その主なものをあげると、桜村132.0、鹿島町116.4、小川町111.7、神栖町110.3、東海村107.5、千代田村107.1などで、筑波学園都市、鹿島開発、原子力研究所、工業団地等、

いわゆる地域開発や産業構造の変化に伴う、人口変動の激しいところである。

なお、男女別の構成を決定する要因は、自然動態による出生性比と死亡性比との関係が基本的なことであるが、地域開発や、産業、経済構造の変化による人口移動によっても性比の格差を生ずる。表一3をみると、今回美浦村があがっているが、これは美浦村トレーニングセンター開設に因する人口流入のあった3月で、性比が100をこえている。このように、一般に経済活動の活発な地域では性比も高くなっている。

表一3 性比の高い市町村

市町村名	性比	男	女
桜村	132.0	14,095	10,678
鹿島町	116.4	20,481	17,591
小川町	111.7	9,499	8,508
神栖町	110.3	16,879	15,309
東海村	107.5	14,601	13,582
千代田村	107.1	10,382	9,691
総和村	106.8	17,957	16,809
美浦村	103.7	6,619	6,381
七会村	103.0	1,485	1,442
勝田市	102.6	11,078	11,636

(3) 市郡別 一市部は自然増加, 郡部は社会増加が大

昭和53年の人口増加数は、47,032人(増加率1.9%)である。このうち、市部の人口増加は、19,177人(増加率1.6%)、郡部は、27,855人(増加率2.2%)となっており、前年(1.6%)に比べ、郡部の増加は著しい。

その内訳をみると、市部においては、自然増加が人口増加の主因で、増加数12,366人(増加率1.0%)、社会増加数6,786人(増加率0.6%)である。これに対して、郡部においては逆に社会増加が人口増加の主因を成し、増加数18,614人(増加率1.5%)、自然増加数は9,187人(増加率0.7%)となっている。これは、前年の社会増加率が0.9%であることをみてもわかるように、この53年に、本県の郡部の地域開発が大きな進展をとげたことがうかがわれる。

なお、外国人は、市部で25人、郡部では54人の増加で、県全体では79人の増加となっている。

(4) 地域別 一県南の人口増加が著しい

本県を行政区分の5地域に分け、人口分布割合をみると表一4に示すとおりである。

人口分布の割合では、県北平坦が30.8%で最も高く、次

いで県南の26.8%、県西の20.6%、県北山間の12.3%、鹿行の9.5%の順になっている。前年からは県北地域を、平坦地域と山間地域に分けてみたが、かなりの格差がある。

また、地域別人口の推移をみると、各地域とも年々増加を示しているが、県南の人口増加は著しく、昭和48年を100とすると、50年は107、51年は110、52年は113と大幅に伸びているが、さらに53年には118と、急激な増加をみせた。県北では平坦地域が大きく増加しており、52年は107、53年には109となった。しかし、山間地域は、50年以降100で人口増加は停滞している。これに伴い、県全体に占める各地域の割合も、県南が高くなってきており、他の4地域は低下の傾向をみせている。

なお、人口増加率をみると、自然増加率は、県北山間、鹿行、県南の各地域とも、前年を下回った。一方、社会増加率は県南の増加がめざましく、筑波研究学園都市への人口流入、首都圏近郊地としての宅地造成、これに加えて美浦村トレーニングセンター開設等による人口流入が、県南地域の増加の大きな要因になっていると思われる。また県西地域の社会増加率も高くなっている。

調査から

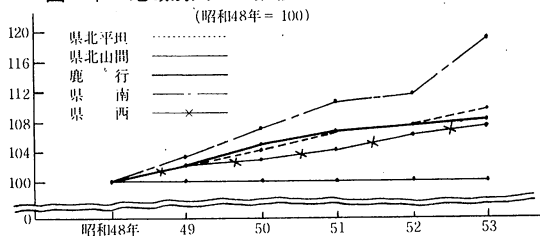
表一 地域別人口の推移

(単位：人，%)

地域		昭和48年	49	50	51	52	53
県	総指数	2,250,374	2,294,443	2,342,198	2,378,220	2,415,580	2,461,806
	指数	100	102	104	106	107	109
県北平垣	総指数	701,349	715,814	728,674	737,996	748,184	758,969
	指数	100	102	104	105	107	108
	人口分布割合	31.2	31.2	31.1	31.0	31.0	30.8
県北山間	総指数	301,181	300,937	301,063	301,547	302,092	302,172
	指数	100	99.9	100	100	100	100
	人口分布割合	13.4	13.1	12.9	12.7	12.5	12.3
鹿行	総指数	217,266	222,275	227,280	229,799	231,825	234,080
	指数	100	102	105	106	107	108
	人口分布割合	9.6	9.7	9.7	9.7	9.6	9.5
県南	総指数	556,400	573,940	597,003	614,215	632,960	659,024
	指数	100	103	107	110	113	118
	人口分布割合	24.7	25.0	25.5	25.8	26.2	26.8
県西	総指数	474,178	481,477	488,178	494,663	500,519	507,561
	指数	100	102	103	104	106	107
	人口分布割合	21.1	21.0	20.8	20.8	20.7	20.6

注) 昭和50年は国勢調査人口，他は10月1日現在推計人口

図一 地域別人口の推移



(5) 市町村別 — 人口増加トップの美浦村 —

県内の市町村数は，昭和54年1月1日現在92(18市44町30村)で，このうち人口増加をみたのは，17市38町17村であった。これは前年に比べ2町5村少くなっている。また減少から増加に転じた市町村もなく，全体では増加市町村数が多く，人口増加数も大きくなっているが，市町村別に見ると偏った増え方をしていることがわかる。

表一五 主な人口増加市町村の推移(人口増加率6.0%以上)

(単位：人，%)

市町村	昭和48年		49		50		51		52		53	
	増加数	率	増加数	率	増加数	率	増加数	率	増加数	率	増加数	率
美浦村	91	1.1	40	0.5	103	1.3	90	1.1	193	2.3	4,528	35.0
荃崎村	375	5.4	800	10.4	470	5.7	947	10.3	969	9.5	2,026	17.3
桜利	524	5.3	2,037	17.1	2,305	15.6	2,710	15.6	3,696	17.7	3,381	13.8
根町	413	4.9	610	6.6	196	2.1	251	2.6	184	1.8	856	8.4
牛久町	2,100	8.6	1,562	6.0	1,697	6.1	1,637	5.6	2,019	6.5	2,644	7.8
伊奈村	573	4.2	690	4.8	619	4.1	773	4.8	1,318	7.7	1,229	6.7
取手市	2,034	4.4	2,081	4.3	4,183	7.9	3,109	5.5	3,811	6.4	4,175	6.5

表一六 主な人口減少市町村の推移(人口減少率1.0%以上)

(単位：人，%)

市町村	昭和48年		49		50		51		52		53	
	減少数	率	減少数	率	減少数	率	減少数	率	減少数	率	減少数	率
緒川村	77	1.3	79	1.3	107	1.9	97	1.7	24	0.4	106	1.9
水府村	126	1.5	169	2.0	136	1.6	55	0.7	123	1.5	125	1.6
里美村	94	1.5	81	1.3	56	0.9	96	1.6	85	1.6	73	1.4
山方町	228	2.3	188	1.9	93	0.9	138	1.4	104	1.1	117	1.2
大子町	208	0.7	314	1.0	477	1.5	316	1.0	308	1.0	331	1.1
美和村	147	2.6	143	2.5	66	1.2	88	1.6	176	2.9	61	1.0
金砂郷村	171	1.5	220	1.9	168	1.5	74	0.7	111	1.0	109	1.0

2 自然動態

(1) 県全体 — 自然増加率は0.9% —

昭和53年における年間の出生は、総数37,938人(男19,367人、女18,571人)で、死亡は、総数16,385人(男8,720人、女7,665人)となっており、自然増加数は、21,553人、増加率は0.9%である。

昭和43年以降の自然増加の推移をみると、表一七に示すとおりで、0.9%~1.1%とほぼ安定した増加率となっている。本年は、前年と同じく0.9%で、自然増は停滞気味である。しかし、全県の社会増加をみると、新興住宅地などの入居により、再生産年齢層が大きく増加しているの、将来の自然増加に多大の影響があるものと予想される。

表一七 年次・市郡別の自然増加の状況

(単位:人,%)

年次	県		市		郡	
	自然増加数	率	自然増加数	率	自然増加数	率
昭和43年	18,136	0.9	11,127	1.2	7,009	0.6
44	18,580	0.9	12,067	1.2	6,513	0.6
45	21,014	1.0	14,005	1.4	7,009	0.6
46	23,417	1.1	14,810	1.4	8,607	0.8
47	24,947	1.1	16,074	1.5	8,873	0.8
48	25,271	1.1	16,243	1.5	9,028	0.8
49	25,632	1.1	15,438	1.4	10,194	0.9
50	23,386	1.0	13,932	1.2	9,454	0.8
51	22,713	1.0	13,237	1.1	9,476	0.8
52	22,214	0.9	12,645	1.1	9,569	0.8
53	21,553	0.9	12,366	1.0	9,187	0.7

(2) 市郡別 — 市部、郡部とも出生率低下 —

市部、郡部別に自然増加の状況を見てみると、市部における自然増加数は、12,366人(増加率1.0%)、郡部は増加数9,187人(増加率0.7%)で、市部の増加は郡部を大きく上回っている。また出生率と死亡率別にみても、市部は出生率が高く、再生産年齢層が市部に集中していることを示している。これに対して郡部は、死亡率7.5%で市部を上回っており、郡部が高齢人口を多く容れていることがうかがわれる。しかし、郡部の地域開発による人口流入は大きく、今後の郡部の出生率の伸びが期待される。

自然増加の停滞を示している。

なお、地域別に自然増加の割合をみると、県北平坦が1.1%、鹿行1.0%、県西0.9%、県南0.8%、県北山間0.4%となっており、県北山間地域の増加率が他の地域より極端に低くなっている(表一八参照)。新設集団住宅地への、再生産年齢層の人口流入が、県北平坦地域、県南地域の自然増に継がってくると思われる。

(3) 市町村別 — 上位3市町変らず —

県内92市町村のうち、自然増加をみたのは、87市町村で、減少が5町村であった。これは前年と同じであるが、その町村には、多少変化がでている。

このうち、自然増加率の顕著な市町村は表一九に示すとおりである。まず自然増加率の最も高いのは、本年も引き続き鹿島町の1.6%、次いで勝田市、取手市の1.5%の順で上位3市町は昭和48年以降変わっていない。以下、千代田村も勝田、取手と同じく1.5%、日立市、神栖町、総和町の1.3%が、増加率の高い市町村である。しかし、これ等の市町村の増加率も平均に低下している。

反対に、減少の市町村をみると、水府村が△1.8%、緒川村が△0.6%、金砂郷村が△0.3%、瓜連町、山方町が△0.2%の、2町3村であった。前年の減少率を順に掲げると(△0.2%、0.0%、△0.2%、0.2%)で、減少率は大きくなっている。

なお、自然増加がマイナスの現象を示しているということは、いうまでもなく、出生より死亡が多いということで、これは、出生力の要因である再生産年齢層の人口流出が高いのに加えて、1戸当りの産児数が少数化している反面、高齢年齢層の人口が増えていることに原因しているものである。

表一八 市部・地域別自然増加の状況 (単位:人,%)

地域	自然増加数	自然増加率	出生率	死亡率
県	21,553	0.9	15.4	6.7
市部	12,366	1.0	15.9	5.8
郡部	9,187	0.7	14.9	7.5
県北平坦	8,068	1.1	16.0	5.4
県北山間	1,271	0.4	12.7	8.5
鹿行	2,355	1.0	16.8	6.8
県南	5,508	0.8	15.1	6.7
県西	4,351	0.9	15.8	7.3

昭和43年以降における、市部別自然増加の推移をみると市部は47、48年に1.5%と高い増加率を示したが、その後は低下の傾向で、本年は1.0%と、前年を0.1ポイント下回った。また、郡部においても、本年は前年を下回り、本県の

表一九 自然増加率の高い市町村及び低い市町村

高い市町村(1.3%以上)

低い市町村(0.0%以下)

(単位:人,%)

市町村	自然増加数	自然増加率	出生率(%)	死亡率(%)
鹿島町	614	1.6	20.4	4.1
勝田市	1,322	1.5	19.0	3.8
取手市	944	1.5	18.4	3.7
千代田村	290	1.5	19.6	5.0
日立市	2,592	1.3	17.1	4.4
神栖町	414	1.3	17.9	5.0
総和町	435	1.3	18.5	5.9

市町村	自然増加数	自然増加率	出生率(%)	死亡率(%)
水府村	△14	△1.8	8.7	10.4
緒川村	△31	△0.6	8.3	13.9
金砂郷村	△32	△0.3	7.5	10.4
瓜連町	△12	△0.2	10.7	12.4
山方町	△22	△0.2	9.9	12.2
河内村	5	0.0	10.5	10.1